



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2016年 NO.4

(通巻46号)

6月26日発行

雨に濡れる紫陽花の美しい季節、梅雨のあとには、暑い夏がやってきます。
今号のニュースレターは、夏のイベント情報を中心にお届けいたします。
酷暑に負けないパワーフルなイベントを、皆様お誘い合わせてお楽しみください。

活動報告

あーすフェスタかながわ2016

<http://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

日時：2016年5月14日（土）15日（日） 10:00～17:00

会場：地球市民かながわプラザ「あーすプラザ」（横浜市栄区）

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会

世界の文化紹介や相互理解を目的とした恒例のフェスタ。バオバブの会は過去2回、ワールドバザール（物販）と世界屋台村（食販）に参加してきましたが、今年は世界屋台村のみに出店。音楽やダンスのライブが行われるステージのすぐそば、というラッキーなブースで、ヤーサ（酸味のあるシチュー）とマーフェ（ピーナッツソースのシチュー）、ベニエ（西アフリカのドーナッツ）、アターヤ（セネガルのミントティー／日曜のみ）の売れ行きも好調。2日間とも完売しました。

イベント案内

アフリカ日比谷フェスティバル

<http://africah.web.fc2.com/event/j-hibiya2016.html>

日時：2016年7月9日（土）10日（日） 10:00～21:00（10日は17:30まで）

会場：日比谷公園・噴水広場（日比谷通りに面した日比谷門から入ってすぐ）

主催：アフリカヘリテイジコミティー <http://africaheritage.jp/>

料理、ライブ、アフリカの楽器のワークショップ、民族衣装体験、アフリカに関するクイズラリーなどなど、もりだくさんのプログラムでアフリカをたっぷり体験できるフェスタです。バオバブの会は物販で参加します。ブースの場所は、噴水をはさんでステージのほぼ正面のあたり。セネガルの女性グループが作ったバッグやポーチ、アフリカ関連絵本といったおなじみの商品のほか、ディウフ会長がセネガル訪問時に仕入れてきたアクセサリーも並びます。公園に散歩がてら、ぜひお越しください。

第6回 GOSPEL FOR PEACE

<http://gospel-sq.com/gp2016/>

日時：2016年8月6日（土）開場15:30、開演16:00、終演20:30

会場：めぐろパーシモンホール 大ホール（目黒区八雲1-1-1／東急東横線・都立大学駅より徒歩7分）

料金：前売り1500円、当日2000円（小学生以下は前売り、当日ともに500円）

(チケット予約は gq2016@fospel-sq.com へ)

主催：NGOゴスペル広場 <http://www.gospelhiroba.com/html/gospel.html>

「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を合言葉に、国際協力を目的に開かれるゴスペル・チャリティー・コンサート。全国各地より集まった「ゴスペル広場」のファミリーグループによるゴスペルはもちろんのこと、今年はカホン（ラテンアメリカの打楽器）の合奏も楽しめます。バオバブの会はロビーにて、バッグ、アクセサリー、絵本などを販売します。なお、入場料1枚につき100円が、バオバブの会を含む5つの出展NGOに寄付されます。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第19回 カダフィ暗殺の本当の理由

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

2011年2月、リビアで、41年以上政権の座にあったムアンマル・カダフィの退陣を要求する、大規模な抗議行動が発生した。フランスとイギリスは、カダフィによるこのデモの鎮圧を口実にして、反政府勢力に武器を与え、諸外国にリビアへの軍事介入を呼びかけた。国連の歴史の中で初めて、まず外交による解決を試みることなく、戦争が始められたのである。この戦争に対して、フランスは、進んで1日につき100,000ユーロを供出したが、それは、単にリビアの人々を救うためではなかったことがわかるであろう。そして、カダフィは、10月20日、シルトの郊外で捕えられ、リンチを加えられ、殺害された。

さて、今回のテーマは政治の話で、＜ことわざを通してアフリカ文化を紹介する＞というこのコラムの枠組みから外れているように見えるかもしれませんが、「1回だけでは習慣にならない」という言葉によって、許していただけるとは思いません。

また、このようなテーマになったことについては、別の理由があります。それは、私が皆様に約束をしたことです。つまり、昨年度最後のニュースレターの中の「ことわざで開く、アフリカ文化の窓 第18回 世界はどこへ？」の中で、フランスを初めとする西欧諸国が、リビアの内紛を利用して、大統領ムアンマル・カダフィを排除したことの本当の理由について、「私の考えを次回お話しする」と書いたのです。約束は守らねばなりません。セネガルのウォロフの人々も「約束は借金と同じ」と言いますから。

前回、私は、二つのことわざ、「お前が喉を引き裂いたものの血は、お前の手だけを汚す」と「災いの犠牲者は、それを起こした人だけではない」を紹介して、豊かで強い国々による貧しい国々の経済的搾取は、搾取される側はもちろん、搾取する側にとっても利益にはならない、そればかりか、世界中に多くの損失をもたらす、ということを明らかにしようとしてきました。

人間は、常に、他の人々を征服し、支配し、搾取しようとしてきました。それは世界中どこでも見られたことですが、近年は、特に、アフリカ大陸とアジアで多く行われました。私たちは、自分たちの社会は進歩・発展していて、すべてに近代的であると思っていますが、この点についてはまったく変わらないばかりか、最悪のところまで来てしまいました。なぜなら、私たちは、互いに破壊し合うための、ますます非人間的な技術を生み出してきたからです。豊かで強い国々が、＜国際協力＞という言葉で隠れ蓑に、あらゆる面で＜不平等＞を維持し、まさに弱肉強食の行き方をとるこ

とを可能にしているのが、これらの技術なのです。

さて、欧米諸国、とくにヨーロッパは、何のために、カダフィ並びに彼の体制を崩壊させようとしたのでしょうか？

アフリカの近代史と政治的状況に通じている人々は、次のことをよく知っています。アフリカの国々の多くの指導者たちは、独立以来、欧米によって、欧米の利益にかなうように選ばれ、人々に押し付けられました。そのため、このような指導者たちは、自分の国の人々のためではなく、欧米の利益になるような、政治的選択をするわけです。

一方で、<私たちは今、独立を果たした。だから、私たちのことは私たちに任せてほしい。私たちの発展の道を選ぶのは私たち自身なのだから>とためらうことなく言った指導者、いわゆる<アフリカ主義者>の指導者がいました。しかし、彼らは、ことごとく、解任されるか、追放されるか、あるいは殺害されてしまいました。カダフィの打倒で終わったリビア内戦について、多くの専門家が書いた解説や記事を読んで、私は、カダフィの死は、欧米諸国の圧力に屈しない指導者に対する、抹殺の連鎖のひとつにすぎない、という確信を持ちました。カダフィは、アフリカの指導者の中でも、最も強力なアフリカ主義者でしたから。

カダフィは確かに独裁者でした。けれども、アフリカの指導者の中では、最も悪の程度の低い独裁者でした。比較してみましょう。

欧米によってその地位にすえられ、守られている指導者は、自国の人々を飢えさせ、自分の国を貧しくします。病院も学校も住まいも作りません。そして、独裁者の常として、反対する人々を虐待し、牢獄におしこめ、追放します。「国の治めるのは私の仕事である。だから私の好きなようにやる。それがお前にも気に入ればそれでいいが、気に入らなければ黙って耐えよ！」というわけです。カダフィも、独裁者として、同じようなやり方で、41年間、リビアを治めました。しかし、カダフィは、彼の国民ために必要な、近代的なインフラを整えました。病院や学校や住まいを作り、たとえば、すべての若者は、結婚すると家を持つことができました。カダフィはまた、砂漠の国リビアに、地底から水を汲みあげて、人口の川まで作りました。ほとんどの肉体労働は外国からの移民の手で行われていたということもあり、カダフィは、リビアに、一定の繁栄をもたらしたのです。

したがって、もし本当に、ニコラ・サルコジ注1のフランス、イギリス、ならびにその同盟国のアフリカ諸国への政治的介入の動機が、指導者の圧政に苦しむ人々を救う、というところにあったならば、先の指導者たちとカダフィの中で、誰を退陣させるべきだったのかが明らかになるのではないのでしょうか。

カダフィが、他の独裁者と異なっていたところがもうひとつありました。欧米諸国によってその地位にすえられ、守られている指導者たちは、欧米諸国に逆らうということは決してありませんでした。それに対して、カダフィは、欧米諸国に向かっても、自分の国民に対してと同じように、「リビアを治めるのは私の仕事である。だから私の好きなようにやる。口を出すな！」という態度を貫いたということです。

これについて、カメルーンの社会学者、ジャン・ポール プガラの分析に従って、見ていきたいと思えます。

1. リビアの石油

リビアの石油の品質は、世界最高だといわれていました。そして、世界のほぼすべてのエネルギー

一の源泉が欧米の支配下にある中で、リビアの石油だけはそれから逃れていました。石油収入をコントロールするために、カダフィは、当初から、石油の輸出会社を国営化しました。アフリカの他の石油産出国は、自分たちの石油を自分たちでコントロールできないか、内戦下で沈滞しているために、貧困のうちにとどまっている一方で、リビアは栄え、欧米諸国と彼らの経済法則を世界に押し付けている機関から借金をせずに、近代化を進めました。ですから、欧米にとって、リビアの石油を手中に収める唯一の方法が、カダフィを排除することだったのです。

2. アフリカ連合、欧米が恐れる計画

何人かの思想家によると、ヨーロッパは、アフリカ連合の創立を阻むためならどのようなことでもやります。それには、主に2つの理由があります。

ひとつは、アフリカ連合ができれば、金融の流れ、何世代も昔から、たえず、また大きく、アフリカからヨーロッパへ流れてきたお金の流れに終止符を打たれるということです。これについては、後ほど、もう少し詳しく見ていきましょう。

そして、もうひとつは、アフリカ連合ができれば、アフリカの莫大な自然資源、鉱物資源、そして、特に人的資源（アフリカの人口構成は若い。15歳以下が41%です）によって、経済的にヨーロッパを凌駕するということです。これは、ヨーロッパにとって、受け入れがたい、しかし、その可能性を否定するのも難しいシナリオなのです。この数十年間、経済が下降の一途をたどるヨーロッパに対して、アフリカでは、年ごとに、ますます多くの国で、経済発展が実現しているのですから。

カダフィは、アフリカ連合を構築するために、自分の金融資産と政治権力のすべてを注ぎ、全力を尽くしました。これについて、3つの領域に分けて説明しましょう。それによって、なぜ、欧米が、彼を緊急に排除する必要があったかが明らかになると思います。カダフィは頑強に抵抗する人でした。欧米の命令か支持によって抹殺された、コンゴのパトリス・ルムンバ、ガーナのクワメ・ヌクルーマ、ブルキナファソのトーマス・サンカラたち以上に。なぜなら、カダフィは、自らの考えを実行することのできる力、つまり、経済的裏付けをもっていたからです。言うまでもなく、石油による収益でした。

2-a 電気通信の分野

1992年、アフリカの45の国々は、アフリカの通信衛星を設置するために、電気通信会社RASCOMを創設しました。それまで、アフリカの電話料金は世界で最も高いものでした。なぜなら、たとえ、アフリカのある国の誰かが国内の誰かに電話をするためでさえ、ヨーロッパの通信衛星を通す必要があったからです。それは、1年に5億ドルの収入をヨーロッパにもたらしていました。ところが、アフリカ自身の通信衛星を創設するためには、4億ドルあればよかったです。そこでアフリカは、彼らの債権者たち（国際通貨基金、世界銀行、アメリカ合衆国、EU…）に4億ドルの借款を打診しました。しかし、彼らは、アフリカから欧米に毎年もたらされる5億ドルがなくなるのを願っていませんでした。そのため、アフリカの通信衛星計画は宙に浮いた状態で、14年が過ぎました。2006年、カダフィは遂に我慢できなくなり、通信衛星設置のために3億ドルを提供しました。すると、残りの分を他から集め、2007年12月26日、アフリカは、史上初めて、独自の通信衛星を持つことができました。それ以来、アフリカ通信衛星は、大陸中をカヴァーする電話、テレビ、ラジオ放送、また、遠隔治療、通信教育等のさまざまな分野で利用されるようになりまし

た。アフリカ大陸中、農村地帯にいたるまで、自由な通信が、少ない費用で可能になったのです。

この動きによって、ロシアと中国が、彼らの技術を提供しながら、アフリカとの共同事業に参入することになり、南アフリカ、ナイジェリア、アルジェリアに新たな通信衛星を設置し、そして、2010年には、第2のアフリカ衛星が打ち上げられました。そして、2020年には、100%アフリカの技術による初めての衛星が、アルジェリアに建設されることになっています。(ベナンのジャーナリスト、ジャン・フランソワ・マンシラのコメントより)

2-b 金融分野

カダフィはまた、アフリカに3つの銀行を創る計画を生み出しました。アフリカの国々を欧米諸国につなぐ借金の悪循環から解放するためでした。

リビアのシルトに本部を置く、アフリカ投資銀行

カメルーンのヤウンデに本部を置く、420億ドルの資本をもつ、アフリカ通貨基金

ナイジェリアのアビュジャンに本部を置く、アフリカ中央銀行（ここからアフリカ通貨が発行されれば、これを使って50年来、フランスがアフリカの15か国を支配してきたFcfaフランセーフア注2は終焉します)

欧米諸国は、アフリカ通貨基金に資本参加しようとした。しかし2010年12月16日と17日、ヤウンデに集まったメンバーは、全員一致でこれを拒否しました。この基金は100%、アフリカによるものでなければならなかったからです。

もし、カダフィが生み出したこの計画が、最後まで到達していたならば、アフリカは、欧米のそれと競い合うことができる金融制度を持てたことでしょう。ところが、彼の暗殺によりこの計画が挫折したので、アフリカは、いまだに、欧米の金融システムに押さえつけられているのです。ここでもまた、カダフィがこのように欧米に対して対抗できたのは、石油のおかげであったことを思い出しましょう。

2-c 政治分野

欧米、特にヨーロッパは、アフリカ連合の創立阻止のために、もうひとつ、巧妙なやり方を使いました。それは、マキャベリの言うところの、<分割して統治せよ>というテクニックでした。アフリカがひとつのブロックになるのを阻むために、多くのブロックを作ろうとしたわけです。そのひとつが、マグレブアラブ連合の創設でした。それは北アフリカのアラブ諸国、モーリタニア、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビア、エジプトをまとめる共同体で、言い換えれば、アフリカをホワイトアフリカとブラックアフリカに分断しようとしたのです。

カダフィはこのような欧米の意図を理解し、全力でそれと戦いました。マグレブアラブ連合発足のための会議に乗り込んで、毎回、この計画が破綻するように、あらゆる手立てを講じました。マグレブアラブ連合創設をリードしようとする欧米諸国にとって、カダフィは、どうにも手におえない存在でした。(ところで、カダフィが暗殺された今日でも、マグレブアラブ連合は、北アフリカのアラブ諸国間の対立により、現実のものになっていません。)

このように、欧米諸国は、常に自分たちの利益だけを考え、そのためには、他の人々を犠牲にするのもいといません。しかし、彼らがそうやって引き出す当面の利益は、永遠の幸福を保障する

ものなののでしょうか？ その中に、未来の危険の芽がないのでしょうか？ なぜなら、セネガルのウォロフの人々は、「良いことも悪いことも、自分のところに帰ってくる」と言いますから。注2

人類の歴史の中で、今日ほど、グローバリゼーションと国際協力が語られることはありませんでした。現実には、国際競争しかないのですが。国家間、大陸間、人種間、民族間、宗教間などなどの競争です。

このような状況の中で、欧米が、首位にとどまるために最大の努力をするというのはわかります。経済的な競争は正当な権利です。しかし、理解できないのは、競争が過剰なところまで行ってしまうことです。なぜなら、それは非人間的だからです。これについて熟考し、私は、次のような結論に至りました。欧米諸国は、この競争に勝ちたいという欲望よりも、アフリカに負けるという恐怖によって、より強く突き動かされているのではないかと、思うのです。

なぜ、アフリカが欧米より強大になることを、欧米諸国はそれほど恐れるのでしょうか？ ヨーロッパ人も、アジア人も、アフリカ人も、全部、同じ人間です。誰かが他の誰かより優れている、ということはありません。ですから、もし、力ある者はその権力を濫用する傾向を持つとするならば、現在は抑圧されているアフリカが、将来、現在の抑圧者である欧米諸国を凌いだとき、彼ら以上の冷酷非情な抑圧者になる恐れがあるわけです。そして、事と次第によっては、アフリカは、その悪を、復讐という論理で正当化しようとするかもしれません。それを、欧米は恐れているのではないのでしょうか。

注1 ニコラ・サルコジには、個人的も、カダフィを抹殺する理由がありました。サルコジは、2007年の大統領選に勝利するために、カダフィから、5000万ユーロの供与を得ていました。2012年、再選を目指すサルコジに対して、左派系調査報道ウェブサイトのMEDIAPARTが、この献金を証拠立てる文書の存在を報じました。これがサルコジの敗因のひとつになったと言われています。2014年には、この件についての事情聴取のため、サルコジは仏司法当局に拘束されました。

注2 Fcfaフランセーファは、アフリカの15か国（セネガル、コートジヴォアール、ベナン、カメルーン、ブルキナファソ、ギネア・ビサウ、マリ、ニジェール、トーゴ、カメルーン、中央アフリカ、コンゴ、ガボン、赤道ギネア、チャド、コモロ）で使われています。

これらの国の銀行は、フランセーファが国際的な保障を得るために、毎年、彼らの資本の50%を、フランス中央銀行に預けておかなければなりません。

注3 遅かれ早かれ、人はその行為の結果を得ることになります。良いことをすれば恩恵を受け、悪いことをすればいつかは犠牲になります。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町 993 - 35

TEL&FAX 045 - 373 - 0059 H P : <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座 no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215